

世界の人事は こうなっている

リクルートワークス研究所 グローバルセンター長 村田弘美



第6回

エリートを輩出するグランゼコール (フランス)

優秀な人材が欲しい。多く人事が望むことです。頭がよい、仕事ができる、期待以上の成果を上げる、アイデアが豊富——優秀な人材の定義は、企業や職種によって異なるため、知識、技術、スキル、態度、経験などを定めることは難しく思います。

エリートとは、「優れた資質や技能を持ち、社会や組織の指導的地位にある階層・人びと」(広辞苑)のことです。フランスでは、だれもが認めるエリート人材がいます。

そして、「グランゼコール」は、歴代大統領や首相、大臣、会社役員などを多く輩出する、エリート養成のための高等教育機関であり、企業はその卒業生を、将来の管理職、役員候補として採用し、ファストコースの対象としています。日本では、マクロン仏大統領がIEP(パリ政治学院)とENA(フランス国立行政学院)の出身者、ルノーのカルロス・ゴーン会長がエコール・ポリテクニクの出身者として有名です。

今回は、こうした人材を生み出すグランゼコールの教育プログラムの一部を紹介しましょう。

まず、入学後に学ぶのは「志」です。厳選された学生を、質の高い教育と実践を通して、“国を支えるエリート人材”に養成する機関として、初年度は職業人としての人格形成、職業倫理を身につけることに、最も力を入れています。

たとえばENAでは、国務を担う者としての責任や、私利私欲でなく国益保持と諸外国との調整、公共サービスの中立性を認識させ、行政の発展と向上に貢献することを学びます。教育の質を担保するために、公・民間部門の第一線で活躍する専門家が教授を務めます。また2年間の初期教育課程では、職業にかかわる学際的な教育プログラムとして、学校教育とインターンによる実務(5~22週間程度)の「交互教育制度」が行われるなど、職業の基礎や実務のノウハウから環境への適応能力までを徹底的に叩き込まれます。

一方、エコール・ポリテクニクは、実践重視のカリキュラムです。エンジニア課程は4年間で、前半2年間は一般教養、後半2年間で深化・専門化課程です。①複数分野にわたる科学教育、②人格形成と外の世界に開かれた人材の

養成、③即戦力養成、という3つの目標が掲げられ、国内外での企業研修に最も比重が高く置かれています。

2年次は流通、金融、研究開発での「企業研修(4~6週間)」、3年次は大学、企業、金融、行政機関での「研究研修(3~5カ月)」、4年次は「就職準備研修(1年間)」と、現場経験を積むことで、さらに専門性を高めます。近年は、1年次はフランス国内、2年次はドイツ、3年次は中国などで研修が行われ、卒業後は、国際経験をもつ管理職候補としてファストコースを進みます。

最近では、日本の大学もフランスのこうした機関と提携を始めており、今後はグランゼコール出身の日本人が増えることも予想されます。人事担当者が気をつけるべきことは、彼らがエリート教育の修了者だということ。“優秀な人”を、いわゆる新入社員として一律に扱うのは、人的資源の無駄遣いとなりかねません。

配置や仕事内容によって不要な遠回りはさせない、保有能力を見極め、早期に能力発揮させる施策を講じるなどの必要があります。